

授 業 科 目 名	協同学習論	教 員 名	野崎 秀正	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独		保育士	
科 目 番 号	SID319	配当年次	3年後期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
単 位 数	2単位				小幼コース	選択
科 目 目 的	大学が独自に設定する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	<p>この授業のテーマは、近年注目されている学習理論である協同学習についての考え方を学び、実際の教育現場で活かせる協同学習の技法を体験的に学ぶことである。この授業の目標は以下の3つである。</p> <p>(1)協同学習の基本的な考え方と協同学習が生まれた背景を理解する (2)協同学習の技法を実際にロールプレイすることで体験的に理解する (3)協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときの留意点について理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1)協同学習の基本的な考え方と協同学習が生まれた背景を理解する</p> <p>1)一斉学習や単なるグループ学習と協同学習との違いについて説明できる 2)協同学習を成立させるための教師の役割について理解している 3)協同学習を妨げるものについて理解し、それを乗り越えるための手法を理解している</p> <p>(2)協同学習の技法を実際にロールプレイすることで体験的に理解する</p> <p>(3)協同学習の技法を実際の教育現場で使用するときの留意点について理解する</p> <p>1)「話し合いの技法」における各技法のメリット・デメリットを説明できる 2)「学び合いの技法」における各技法のメリット・デメリットを説明できる 3)「問題解決の技法」における各技法のメリット・デメリットを説明できる 4)「図解の技法」における各技法のメリット・デメリットを説明できる 5)「文章作成の技法」における各技法のメリット・デメリットを説明できる</p>					
授 業 の 概 要	協同学習は、グループダイナミクス、認知心理学等の実証科学を基盤とした近年特に注目されている学習指導法の理論である。この授業では、まず協同学習の考え方が生まれた背景と基本的な考え方を学び、その後実際の協同学習の技法についてロールプレイを用いて体験することで、教育現場で実践的に使用する技術を身につける。授業形態は講義とする。本授業では多くを協同学習によるアクティブラーニングで学習する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	特になし					
授 業 計 画	<p>第1回：協同学習とは何かについて、特に一斉授業やこれまでの単純なグループ学習との違いから理解し、その利点と課題について考える。(目標(1)-1))</p> <p>第2回：協同学習の理論的背景を、特に社会的構成主義の学習観や学力観を中心に学ぶ。特に、教師の役割についてこれまでの学習観との違いを理解する。(目標(1)-1), 2))</p> <p>第3回：協同学習における協同の定義について、競争との比較から考える。特にどのような条件下において協同性が成立するのかについて考える。(目標(1)-2))</p> <p>第4回：協同学習を妨げてしまう要因について学び、留意点を理解する。(目標(1)-3))</p> <p>第5回：学習場面における児童の協同学習だけではなく、職場において協同学習を導入する意義と可能性について考える。特に教師が協同して問題解決に取り組むことの重要性と意義について学</p>					

	<p>ぶ。(目標(1)-2), 3))</p> <p>第6回: グループにおいて何か1つの意見を集約したいとき等における協同学習を用いた「話し合いの技法」を実際の協同学習を体験する中で理解する。(目標(2), (3)-1))</p> <p>第7回: 「話し合いの技法」のメリット・デメリットについて学び合う。(目標(2), (3)-1))</p> <p>第8回: グループにおいてそれぞれのメンバーが互いに教え合う場合における協同学習を用いた「教え合いの技法」を実際の協同学習を体験する中で理解する。(目標(2), (3)-2))</p> <p>第9回: 「教え合いの技法」のメリット・デメリットについて学び合う。(目標(2), (3)-2))</p> <p>第10回: グループにおいて何か1つの問題を解決しなければならない場合における協同学習を用いた「問題解決の技法」を実際の協同学習を体験する中で理解する。(目標(2), (3)-3))</p> <p>第11回: 「問題解決の技法」のメリット・デメリットについて学び合う。(目標(2), (3)-3))</p> <p>第12回: グループにおいて情報のパターンや関連性を図示する場合における協同学習を用いた「図解の技法」を実際の協同学習を体験する中で理解する。(目標(2), (3)-4))</p> <p>第13回: 「図解の技法」のメリット・デメリットについて学び合う。(目標(2), (3)-4))</p> <p>第14回: グループにおいて首尾一貫した文章を作成する場合における協同学習を用いた「文章作成の技法」を実際の協同学習を体験する中で理解する。(目標(2), (3)-5))</p> <p>第15回: 「図解の技法」のメリット・デメリットについて学び合う。(目標(2), (3)-5))</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>授業外学習の課題として提出するレポート・ワークの内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポートが全体の30%、定期試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。コメントを記載して返却する。</p> <p>授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</p>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習: 毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習: 学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
テキスト	<p>授業毎に資料、ワークシートを配付する。</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョンソン, D. W. ・ジョンソン, R. T ・ホルベック, E. J. 著 石田裕久・梅原巳代子 訳 『学習の輪—学び合いの協同学習入門—』 二瓶社 ・杉江修治 著 『協同学習入門—基本の理解と51の工夫—』 ナカニシヤ出版 ・バークレイ, E. F. ・クロス, K. P. ・メジャー, C. H. 著 安永悟 監訳 『協同学習の技法』 ナカニシヤ出版 <p>参考資料等: 適宜提示する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します。</p>
オフィスアワー	<p>毎週火・木曜日14:40~16:10</p>